

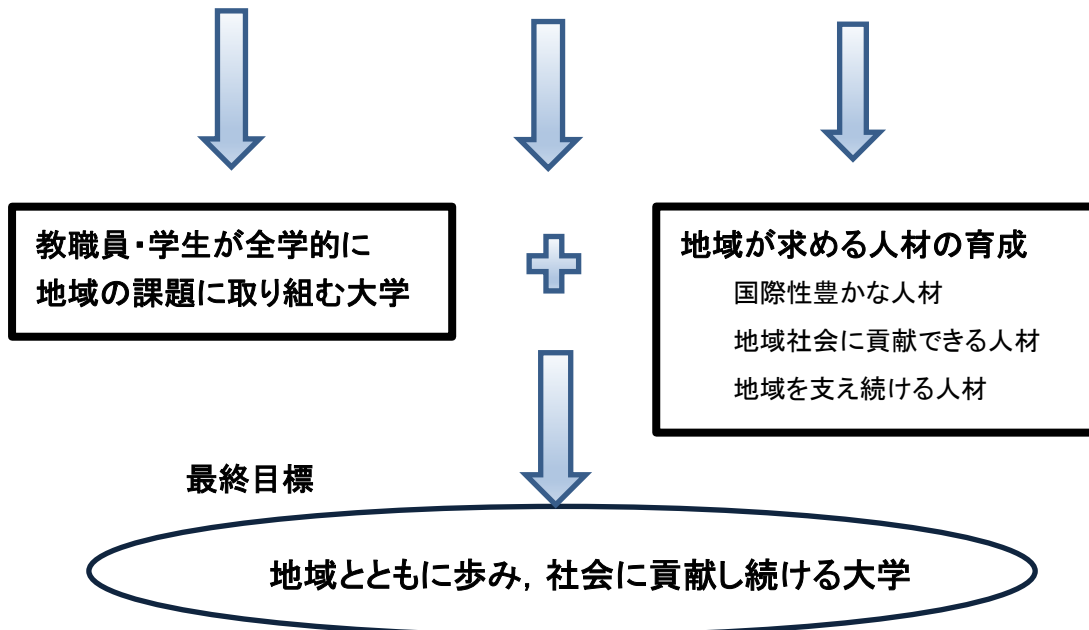
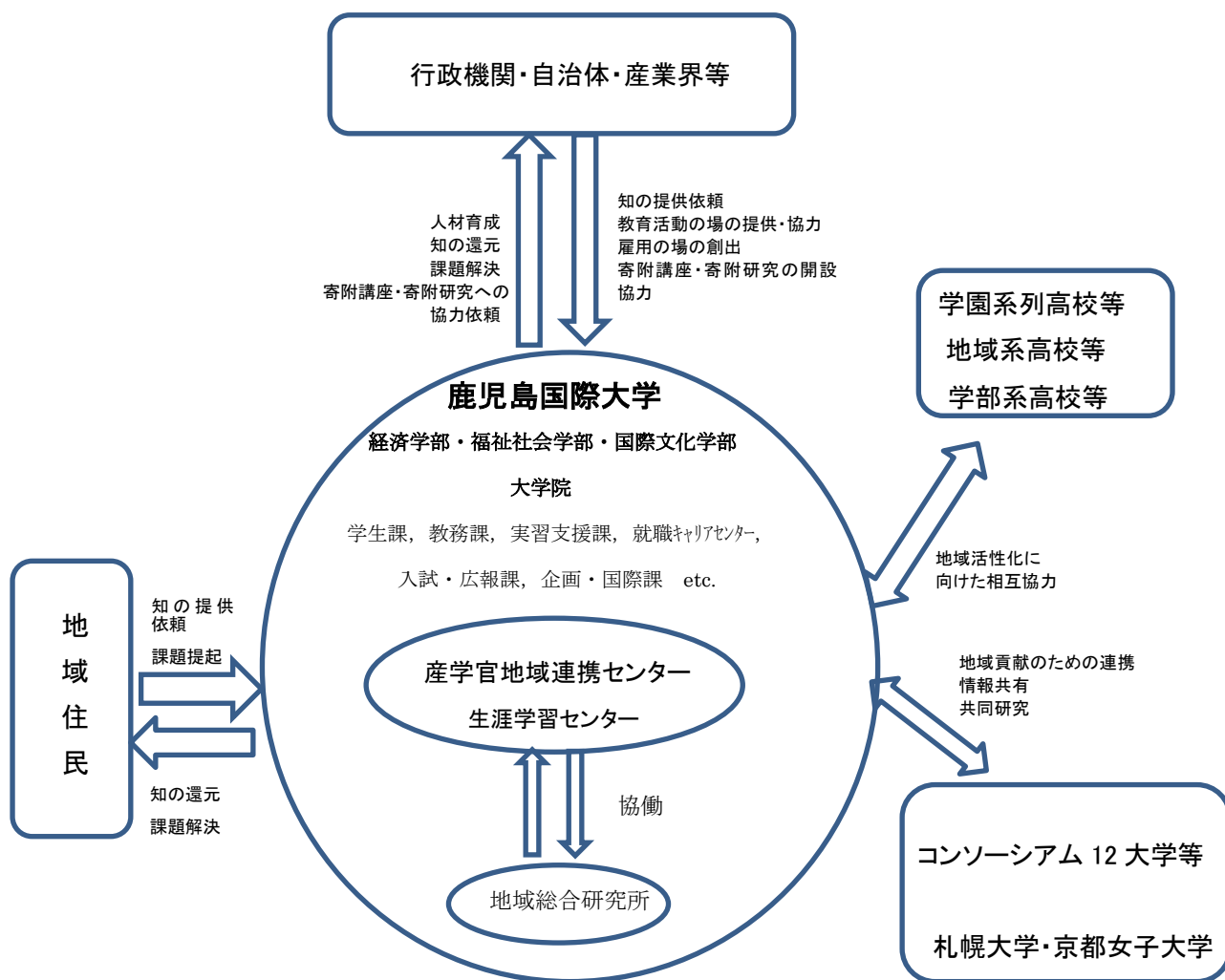
# 鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン

テーマ：『地域とともに歩み，社会に貢献し続ける大学を目指して』

## I. 策定の趣旨及び将来像

『鹿児島国際大学産学官地域連携推進ビジョン』は，本学の産学官地域連携の現状を踏まえ，大学のコアミッションである「国際的視野でものを考え，地域社会に貢献する人材育成」に基づき，今後3年間(2020(令和2)年度～2022(令和4)年度)において，継続的に又は新たに取り組むべき課題と取組みの方向性を挙げ，本学の目指すべき産学官地域連携の将来イメージを描いたものである。

これまでに蓄積された知の資産（シーズ）と経験豊富な教職員のノウハウ，そして本学ならではの独自性・特色を最大限に活かし，教職員・学生が地域の課題解決に向け全学的な取組みを実践していくことにより，「地域とともに歩み，社会に貢献し続ける大学」として，全国の地方大学のモデルとなる個性豊かな大学を目指す。



## Ⅱ. 目標及び取組みの方向性

### 1. 産・学・官・地域と連携した教育研究活動の推進及び社会への還元への検証

学園の理念と目的を実現するため策定した中期ビジョンに基づき、「産・学・官・地域と連携した教育研究活動の展開」、「学術研究の奨励と研究倫理の向上」及び「地域社会への地（知）の還元」を3本柱に、「地域とともに歩み、社会に貢献し続ける大学」を目指し、外部評価委員による評価に基づく、事業成果や適切性の検証を重視したPDCAサイクルを構築する。

### 2. 産・学・官・地域が一体となった連携事業の推進

2019(令和元)年度で終了するCOC事業を継承し、「地域人材育成プログラム」と「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」をとおして授業や演習におけるフィールドワークの充実・発展を図り、地域志向の学生を増やす。さらに、事業協働機関と協力して魅力的な雇用を創出し、学生・地域のニーズに応えることにより、事業協働地域における就職率の向上を図る。

#### ①COC事業終了後の継続した事業展開（継続的体制の構築）

ア. COC事業終了後も引き続き事業展開を図っていくため、新たに「産学官地域連携協議会（仮称）」、「産学官地域連携協議会企画部会（仮称）」を設置し、事業の推進体制を整える。

イ. COC事業により確立した「地域人材育成プログラム」及び「国際ビジネスとグローバル英語プログラム」を引き続き推進し、プログラムを履修した学生の地元就職の定着を目指す。

ウ. 地域が求める人材の育成や地元就職率の向上など地域貢献に資する取組みを行い、地（知）の拠点として社会に貢献し続ける大学を目指す。

② インターンシップやフィールドワークに参加した学生の成長を明らかにするとともに、就職活動や卒業後の進路にどのような影響を与えたかを調査し、その成果を在学生に還元する。

目標：①地域人材育成プログラム修了証の発行数 100件を達成する。

②地元就職率 80.0%を達成する。（平成30年度：74.6%）

### 3. 行政機関・自治体・産業界等との連携の推進

自治体、産業界等からの求めに応じ、地域の課題について調査研究し、地域の課題解決に連携して取り組むとともに、政策立案、さらには提言活動にも取り組み、「地域が求める人材の育成」に努めるとともに、「地域とともに歩み、社会に貢献し続ける大学」を目指す。

#### ①行政機関・自治体との連携

- ア. 連携先からの要請に対し、相互に協議を行いながら連携協力する事項の実施体制を明確にするとともに、全学的な協力体制の中で、着実に遂行する。
- イ. 教職員・学生は、行政が行う政策立案、提言等に関する委員会等への参加要請や調査研究への要請に可能な限り協力する。
- ウ. 自治体から要請のあった地域課題解決への取組みについて、教職員・学生によるフィールドワークやゼミ等の教育活動を推進する。
- エ. 地域の問題に関心を持つ教職員が、インターンシップやフィールドワークにできるだけ多く携われるよう、全学的な取組みとして周知・広報に努め、参画の拡大・公平化を図る。
- オ. 本学には福祉社会学部があり、とくに地域の課題として福祉の充実に取り組む市町村に対し、教職員・学生がフィールドワークや委託研究等により支援する。
- カ. 地域が行う観光振興について、要請に基づき学生が参加し協力するとともに、留学生の活用による地域の国際化に向けた取組みを支援する。

#### ②産業界等との連携

- ア. 地域経済・観光の発展への貢献  
経済団体等が行う地域経済や産業、観光等に関わる調査研究に積極的に関与するとともに、経営・観光の分野等の講座開催への支援や、経済団体等が組織する委員会等への専門家としての参画などを進める。
- イ. 地域産業界が求める人材の育成及び学卒者の地元就職率の向上  
フィールドワークなどにより学生の地元志向の向上につながる人材育成を推進し、地元就職率の向上を目指すとともに、インターンシップ等により学生の就業力の育成強化に取り組む、地域産業界が求める人材の育成に努める。
- ウ. 国際的視野に立つ人材の育成及び地域産業の国際化・海外展開への支援  
海外インターンシップ、語学研修、国外留学等を通じて国際的視野を備えた人材の育成に取り組むとともに、企業の国際化・海外展開への支援として留学生を活用した多様な取組みなどへの協力を行う。
- エ. 留学生（外国人・日本人）の地元就職支援  
外国人留学生に県内インターンシップへの参加を促し、県内就職に対する意欲

向上を図るとともに、企業側に対し留学生受け入れへの理解を促す。

また、日本人の海外留学経験者が、海外での知識・経験を活かして地元企業で活躍できるよう、企業との連携を密にし受入を促進する。

オ. 産業界等と連携した寄附講座・寄附研究部門の設置への取組み

地域産業界等からの奨学を目的とする寄附を有効に活用し、本学の教育研究の進展及び充実に資する寄附講座及び寄附研究部門の設置に向けて取り組む。

### ③鹿児島県総合教育センターとの連携

ア. 連携協議会等の定期的な開催

鹿児島県総合教育センターと、教育に関する諸課題及び教員の資質向上に関する事項等について、年2回連携協議会等を開催する。

イ. 連携授業の実施

鹿児島県総合教育センターの教員に本学の「鹿児島の教育」「教職実践演習」の授業担当を依頼し、教育の質向上を図る。

目標：①フィールドワークの件数・参加学生数 60件・1,100名を達成する。

(平成30年度実績：62件・1,073名)

②国内インターンシップ参加者数300名を達成する。

(平成30年度実績：337名)

## 4. 高校・大学等との連携の強化

大学生が高校生などと連携して地域の課題解決に取り組むことにより、将来地域を担っていく人材の育成を目指す。

また、複数の大学と協働し、共通の地域課題の解決に取り組むことにより、活力ある地域づくりに貢献する。

### 【大学間連携の推進】

①「大学地域コンソーシアム鹿児島」における高等教育機関との連携を活かす取組み

県内13の高等教育機関や本学教職員との連携を緊密にし、各事業部会活動に積極的に参加するとともに情報の共有化を図る。

### 【各事業部会】

- ・教育連携事業部会
- ・高大連携事業部会
- ・FD・SD活動事業部会
- ・教育免許状更新講習事業部会
- ・産学官連携事業部会

## ②連携協定先大学との連携の取組み

学生の派遣留学や相互交流に取り組んでいる札幌大学とは引き続き連携を強化する取組を継続するとともに、本学留学生の京都女子大学におけるサマースクールへの参加事業の継続及び同大学との寄附研究部門における基金事業の推進に鋭意取り組む。

### 【高大連携の推進】

#### ①「大学で学ぶ意義」「大学の魅力」等についての高校生への意識づけの向上

- ア. オープンキャンパスにおいて模擬授業・体験学習コーナーの充実を図るとともに、引き続き高校等への出前講義等への講師派遣を行う。
- イ. 「高校生よかアイデアコンテスト」の継続的实施により、県内高校に事業の認知度を高めるとともに、地域活性化に寄与するアイデアの実現化に向けた取組みへの支援等を行う。

#### ②学園系、地域系、学部系による高校との積極的な連携の取組み

- ア. 学園系については、文化祭、学園祭、催し物等への相互協力を図る。
- イ. 地域系（主に近隣の高校）については、商店街振興、地域おこし等に関する調査研究を協働で行うとともに、催し物への共同参画を行う。
- ウ. 学部系については、本学の特色を生かし、商業系学科をはじめ福祉系学科や国際系学科を持つ高校との連携の在り方について、所属する教員と本学教職員との意見交換を行い、高校生・大学生が協働して行う各種事業を実施する。

目標： 「高校生よかアイデアコンテスト」の参加高校数 20 校を達成する。  
(平成 30 年度実績：9 高校)

## 5. 地域住民との連携の推進

大学の「知」の集積を生涯学習事業の展開等により学外の地域住民に広く公表し、地域に還元するとともに、教職員・学生が地域活性化に積極的に取り組むことにより、「地域とともに歩み、社会に貢献し続ける大学」を目指す。

#### ①地域経済の振興など地域活性化への取組みの支援

地域の企業・団体等との連携を図り、教職員・学生が地域の課題解決に向けた調査研究を行い、地域振興のための提言を行うとともに、地域のイベント等に参画するなど地域活性化への取組みを支援する。

#### ②地域集落の課題解決に向けた取組みへの支援

地域集落より要請のあった地域の歴史・文化・風土に関する調査研究などに教職員・学生がフィールドワーク等の教育活動を通じて取り組むとともに、地域が抱える課題の解決に向けても地域住民と協働して取り組む。

#### ③地域住民の福祉の充実にに向けた取組みへの支援

高齢化社会の進展等により地域社会の福祉の充実等が喫緊の課題となっているなか、本学の専門性を活かした教職員・学生による教育活動の推進や地域住民との交流等とおして、健康と生きがいを実感できる地域社会の実現に向けた取組みを支援する。

#### ④生涯学習事業の展開

大学の持つ高度な研究・教育の機能を地域と社会に開放し、学ぶ意欲を持つ住民の探究心に応えることにより、地域社会との連携を深め、地域の「知」の拠点としての大学の社会的役割を果たす。

**目標**：年4回の公開講座の参加者数550名を達成する。

(平成30年度実績：283名)

## 6. 地域総合研究所との協働

産学官地域連携センターは、鹿児島とその周辺地域を対象に研究を行う地域総合研究所と協働しながら、その研究成果の報告会の共同開催や、研究に伴う学生のフィールドワーク活動などとおして、様々な分野における地域活性化への取組みを支援する。

さらに、教育・研究の成果として生じる知的財産の創出、保護及び活用を促し、もって社会の発展に貢献することは高等教育機関としての大学に課せられた使命であり、産学官地域連携センターと地域総合研究所が中心となり、知的財産に関する本学としてのポリシーや取扱いの規則等について検討を進める。